

就職希望先を何十カ所受ければ、自分は雇ってもらえるのだろうか。そんな不安は、三方所目であっけなく消え去った。

心と体の性別が一致しない性同一性障害（GID）の倉敷市、小野瀬さん（33）は今年二月、地元特別養護老人ホームの面接に合格した。戸籍の性別に従い、女性として仕事を転々としてきたが、面接では「性を偽るのはもう嫌だった。男性として生きていきたい」とGIDを打ち明けた。職場では男性用の更衣室、トイレの使用が認められ、高齢者の介護に汗を流す日々。予想外にスムーズだ

## 見つめて心の性

性同一性障害のいま

「テレビなどでGIDを知っていたから、驚かなかった。きちんと仕事をしなくてもえれば何の問題もない」

「誰かが公表し社会に訴えなければ、何も変えられないと思っ

た就職活動をまよまよ、こんなに早く決まるとは」と振り返る小野瀬さんに対し、採用を決めた男性施設長（35）はさうりと言った。

# 少数者の声が変化生む

## ⑤ 明日への兆し



性同一性障害を表明し、世田谷区議として活躍する上川さん。多様な生き方を尊重しよう社会の実現を願う＝世田谷区内の公園

する自治体が相次いで一九九六年には平均前ほど孤独に悩まなくなってきた。GID治療施設・岡山大病院（岡山市）の山大病院（岡山市）の中塚幹也教授が二〇〇六年七月までの受診者六百六十一人を行った調査では、自分の性別違和感がGIDだと知ってから受診するまで

の一人が性同一性障害のテレビドラマが放映されるなど、さまざま

「誰かが公表し社会に訴えなければ、何も変えられないと思っ

た。東京都世田谷区の上川あやさん（30）は当事者の一人として、環境改善を訴えること

上川さんは一九九八年にGIDと診断された。住民票や年金手帳一つとっても希望の性別に変更できない現実への絶望感をばねに出

馬。〇三年に初当選し、現在二期目を務める。民直弘が担当しまし

おわり